

「回復できる」伝えよう

リカバリー・パレードの実施予定

開催地	日時	集合場所
横浜	9月10日（土） 午後1時～※	象の鼻パーク (横浜市中区)
広島	9月19日（月・祝） 午後1時～	ハノーバー庭園 (広島市中区)
北九州	9月22日（木・祝） 午前9時半～	あさの汐風公園 (北九州市小倉北区)
東京	9月22日（木・祝） 午前11時～	新宿中央公園 (新宿区)
関西	9月22日（木・祝） 午前11時半～	靱公園 (大阪市西区)
仙台	9月22日（木・祝） 午後0時半～	元鍛冶丁公園 (仙台市青葉区)
沖縄	11月13日（日）	未定

※横浜開催は午後1時～アトラクション、3時～パレード
※変更がありうるので、各地の事務局フェイスブックなどで確認

【参加方法】
個人参加＝開催日時に集合場所まで。実名を名乗らずニックネームで参加することも可能。アピールしたいことをブラークカードなどに書いて持参することもできる
団体参加：審査会実行委員会まで連絡すること

〔問い合わせ〕
リカバリーパレード実行委員会

FAX 045・349・3003、info@recoveryparade-japan.com



いまなりともみ 今成知美

包容力ある社会に

たたく。それを見ると、一般の人は自分や家族に異変を感じても認めたくない、相談しづらい、となる。その結果、社会から孤立して問題がどんどん大きくなってしまう。

国内の依存症者109万人に対し、治療している人は4万～5万人に過ぎ

の責任で回復の姿を示す活動であり、私も素晴らしい。私は、日本を「回復応援する、包容力の社会」にしたい。そのため社会は子どもの教育も良いはずだ。そんなわけでこのパレードに参している。

「警察が但
護した酩酊老
を家族に引き

私は市民団体の立場で
アルコール健康障害対策
基本法の制定（2013年12月）、同法に基づく
政府の基本計画づくり（今年5月閣議決定）に
携わることができた。アルコール依存症（以下、
依存症）に対する省庁間や省内部局間の連携はか
なり進んだと

渡す際に相談先のレットを渡す」——

「飲酒運転処分と併せて依存症を依存症として話す」
「なんでもいい。」「どうぞ」と、監道府県を進めようとする。

存症はない。りう務時飲む人は慣のあると

十分に理解する。依存する病気が間の不規則な、眠るところが多い。
例が多い。
延長線へ
のだ。
しきりが、
になること

理解されて
症は誰でも
に。例えば
規則な職業
ためにお酒
い。そんな
上に依存症

が依り、この啓発活動は、Kの立場から、私は人たちは、氣であることを知りたい。

うには、依存症立
てはいるだろう。こ
めり、回復でき
知つてもらう必要
は1980年にこ
立ち上げにかまえ
これまでさまざま
活動を見てきた。
の中でも、



2015年9月に行われたパレードの模様（東京・新宿）

リカバリーパレード

アルコールなどの依存症、統合失調症、うつ病の人やその支援者らが回復を祝つて行進する「リカバリーパレード（回復の祭典）」が、9月から7都市で行われます。6年前に東京で始まって以来、各地に広がってきました。関西・横浜は今年が初の開催です。趣旨に賛同する人なら誰でも参加できます。2014

年6月施行のアルコール健康障害対策基本法に基づく政府の基本計画が今年5月31日に閣議決定されるなど、依存症をめぐるさまざまな取り組みが進んでいます。そこで、6年前からパレードに携わる城間勇さん、アルコール関連問題に詳しい今成知美さんにパレードの持つ意義などを尋ねました。（福田敏兒）

回復した者の責任

ている

A portrait of a middle-aged man with short, light-colored hair, wearing black-rimmed glasses and a blue and white plaid shirt. He is looking directly at the camera with a neutral expression.

城間 男
障害福祉サービス・生活訓練
事業所RDP横近施設長

東京・新宿中央公園を起點に第1回リカバリーパレードを行い、約350人が参加した。アルコール、薬物、ギャンブルなどの依存症者、統合失調症、うつ病などを経験した人が「回復」(以前の自分より良くなつたこと)を喜べることの1点で、上げるのは恥だといふ内なる偏見もあった。しかし、パレードに参加したらそんな見方は吹き飛んだ。自分の中の重きから解放された。そして、回復できることを多くの人に伝え、希望をarkanてもらえた。回復には人とのつながりが欠かせない